

# 夜間街路の明るさがドライバーの安心感 に与える影響に関する研究

平成 31 年 2 月 鈴木 星也

## 要旨

### 目的

夜間の自動車の運転では、眠気などによる集中力の低下や視界の悪化など、昼間の時よりも様々な危険が潜んでいる。本研究は、夜間時に運転者が感じる安心感に着目し、輝度や道幅など定量的な値と、運転者が実際に街路を運転して感じる明るさ感や安心感を調査し、運転者の安心感に影響を及ぼす要因を分析する。

### 方法

まず、長野市内で調査対象とする街路を複数決め、それぞれの街路の平均路面輝度や道幅、照明の数などを計測した。次に、被験者に対象街路の動画を見てもらい、アンケート形式の意識調査をおこなった。最後に、平均路面輝度や道幅などの定量化された値と定性的な値である運転者の心理的要因を用いて、どのような要素が運転者の安心感に影響を及ぼしているか、重回帰型のモデル分析をおこなった。

### 結果

街路の輝度を算出した結果、視界全体の輝度の値は住宅街の街路が低い一方で、路面輝度は道路側の壁などの影響で最も高い値を得た。

モデル分析の結果、運転手の安心感には「街路周辺の輝度」、「照明が平面的に存在している」、「歩道の有無」の順に影響を及ぼしているという結果を得た。

特に安心感が低かった住宅街の街路に関しては、設置されている照明を LED に変えるなどして、周囲の民家への影響を少なくしながら、街路照明の輝度を上げることで、運転者が夜間に安心して運転できるようになると考える。

指導教員 高瀬 達夫 准教授